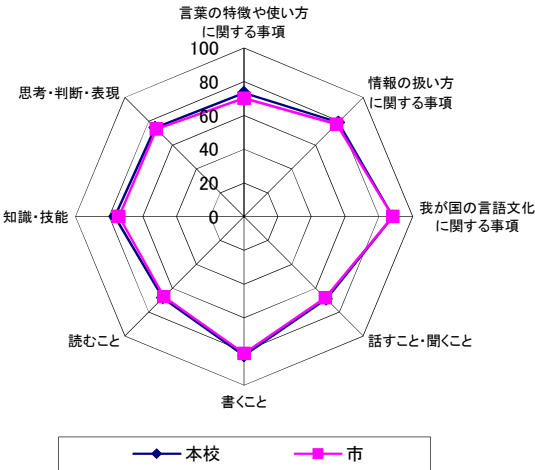


宇都宮市立陽北中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	73.4	70.2	64.7
	情報の扱い方に関する事項	79.1	77.6	71.1
	我が国の言語文化に関する事項	88.3	88.3	79.1
	話すこと・聞くこと	69.0	68.2	67.4
	書くこと	82.4	81.1	71.7
	読むこと	68.2	67.2	61.3
観点別	知識・技能	76.6	74.2	67.9
	思考・判断・表現	74.6	73.5	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

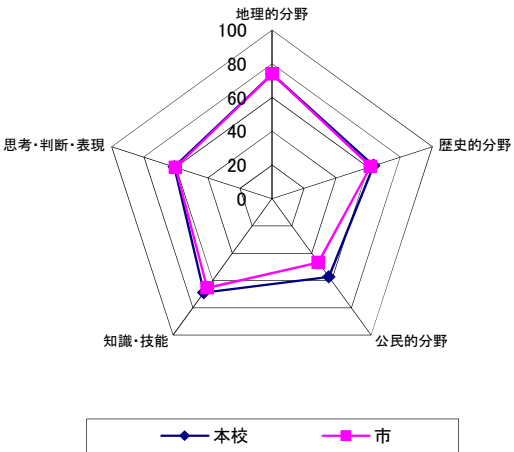
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○言葉の特徴や使い方に関する事項の正答率は、市の平均と比較して、3. 2ポイント上回った。 ○文法・語句に関する事項について、類義語についての問題は、16. 5ポイント上回った。 ●文法・語句に関する事項について、助動詞についての問題は、1. 9ポイント下回った。 ●漢字の書き取りでは、「短縮」の正答率が4. 3ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・授業の中で時間を確保し、漢字学習にあてる。また、日常生活の中でも、漢字を書く機会を積極的に取り入れる。紛らわしい漢字や画数の多い漢字は、特に繰り返し学習する機会を設ける。 ・助動詞は、文法の中でも複雑であり、更に第2学年で学習するため、学習後に内容を忘れてしまう生徒も多い。3年時でも、折に触れて、復習する時間を取り、知識の定着を図る必要がある。
情報の扱い方に関する事項	○情報の扱い方に関する事項の正答率は、市の平均と比較して、1. 5ポイント上回った。 ○説明的文章において、論理の展開の仕方を捉える問題では、0. 8ポイント上回った。 ○レポートを書く問題において、情報と情報との関係を理解し、自分の考えが分かりやすく伝わる工夫についての問いでは、2ポイント上回った。	・文章や資料に書かれている情報を読み取る際に、図表やレポートなど多様な形式で情報をまとめる機会を設ける。 ・説明的文章において、段落の役割や段落どうしの関係に着目したり、事実と考えの関係を区別したりする学習活動を積極的に設ける。
我が国の言語文化に関する事項	○我が国の言語文化に関する事項の正答率は、市の平均と同様の正答率だった。 ○歴史的仮名遣いに関する問題や、現代語訳を手掛かりに古典を読んでいるかの問題についても、市と同様の正答率であり、共に85ポイント以上と高い正答率であった。	・古文を読む際に必要な知識や技能の習得を行う。また、時代背景や作者について学ぶことで、生徒の興味や関心を引き出す。 ・現代語と表現が似ていて、意味が異なる古語については、授業の中で説明を加えるなど、定着させていく。
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことの正答率は、市の平均と比較して、0. 8ポイント上回った。 ○考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫していることの問題については、1. 8ポイント上回った。 ○話の展開を予測しながら聞き、自分の考えを深める問題については、2ポイント上回った。 ●話の展開を予測しながら聞く問題では、1. 1ポイント下回った。	・自分の考えと比べながら話を聞いて、自分の考えをまとめる活動を通して、話を聞く観点を学ぶ機会を設ける。 ・ICTを活用して、話し合いの様子やスピーチの様子を動画で撮影し、生徒自らの学びの調整に生かしていく。
書くこと	○書くことの正答率は、市の平均と比較して、1. 3ポイント上回った。 ○自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫しているかの発問では、1. 3ポイント上回った。 ○目的や意図に応じた表現になっているかを確かめて、文章全体を整える問題では、3. 1ポイント上回った。	・様々な場面で、自分の考えをまとめる場面を設ける。自分の書いた文章を、自分で推敲したり、他の人が書いた文章を遂行したりする活動を取り入れ、協同的な学びに生かす。 ・文章を書く相手や目的に応じて、適切な構成や言葉遣いを選択したり、用いたりすることができるよう指導する。
読むこと	○読むことの正答率は、市の平均と比較して、1ポイント上回った。 ○文学的文章において、考えを広げたり深めたりする問題において、3. 7ポイント上回った。 ○説明的文章において、論理の展開の仕方を捉える問題において、2. 1ポイント上回った。 ●文学的文章において、物語の展開の仕方を捉える問題では、3. 1ポイント下回った。	・説明的文章において、段落ごとの要点を捉え、段落の役割を考えたり、文章全体を要約したりすることで、論理の展開について正確に理解する活動を授業の中で設ける。 ・文学的文章において、登場人物の心情の変化や場面の展開を理解しながら、文章を客観的に評価する活動を行う。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	73.8	74.0	67.9
	歴史的分野	63.4	61.5	56.1
	公民的分野	57.5	46.9	40.7
観点別	知識・技能	68.9	65.5	60.6
	思考・判断・表現	60.9	60.2	52.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

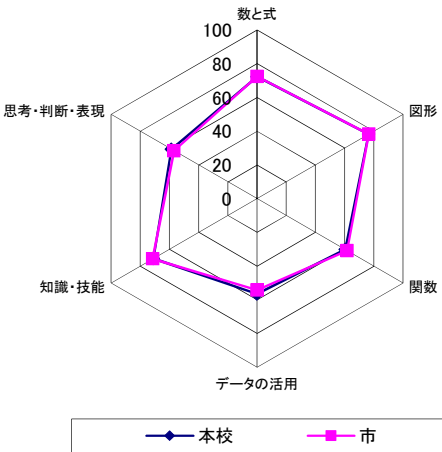
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○大陸と海洋の分布についての理解をもとに、資料を読み取る問題の正答率が高い。 ●複数の資料に着目して考察し、表現する問題が2問あったが、環境問題についての問いでは市の平均を上回ったが、四国地方の伝統産業が抱える課題についての問いでは市の平均を下回っている。 ●日本の工業がさかんな地域の特色についての問題では、市の平均よりも9.0ポイント低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・様々な種類の資料に触れるようにして、それぞれの資料の読み取り方をていねいに確認しながら学習を進める。 ・複数の資料を組み合わせる活動の機会を増やす。 ・様々な資料や問いに触れることで、資料を読み取る力や読み取ったことを考察して判断したり、文章で表現したりする活動の機会を増やす。 ・地域間の共通点や差異などを調べる視点を持ち、既習事項を活用して世界や日本の学習を進める。
歴史的分野	○基礎的な知識・技能が定着している生徒の割合が高く、項目や事項の異なる複数の問題で市の平均を大きく上回っている。 ●資料の読み取りや複数の資料に着目して考察し、判断する問題では、市の平均を若干下回っている。	・知識の定着や理解を深めるとともに、それを活用してレポートをまとめるなど、表現する活動を取り入れる。 ・資料(史料)に触れる機会を増やし、読み取る力を付ける。 ・複数の資料を組み合わせる活動の機会を増やす。 ・様々な資料や問いに触れることで、資料を読み取る力や読み取ったことを考察して判断したり、文章で表現したりする活動の機会を増やす。
公民的分野	○全体的に市の正答率を大きく上回っている。 ○日本国憲法や公共の福祉、社会権の種類など、一問一答形式の知識を問う問題の正答率が高い。 ●新しい人権が認められるようになった背景について考察し表現する問題では、正答率が市の平均並みである。	・日本国憲法の前文や条文に触れながら学習を進める。 ・問いを立て、具体的な事例を取り上げて、対話的な学習を通じて理解を深める。 ・「対立と合意」「効率と公正」などの見方・考え方を重視しながら、問いを追究したり具体的な事例を考察したりして学習を進める。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	72.4	72.5	71.3
	図形	76.4	76.5	68.1
	関数	60.4	61.7	50.3
	データの活用	56.5	54.2	43.5
観点別	知識・技能	70.9	71.5	66.7
	思考・判断・表現	58.6	56.9	45.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

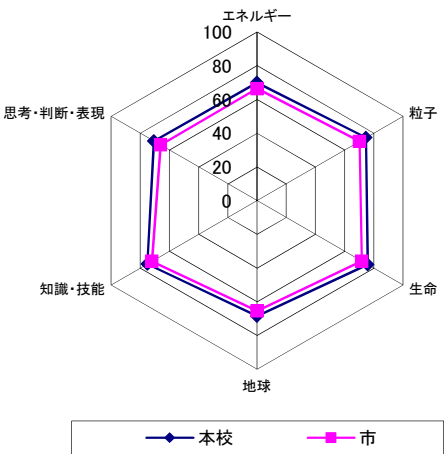
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	●市の正答率を0.1ポイント下回った。 ○乗法公式を使って式を展開する問題では、市の正答率を5.4ポイント上回った。 ○根号を含む式の加法の問題では、市の正答率を2.2ポイント上回った。 ●同類項をまとめる問題では、市の正答率を4.8ポイント下回った。	○新たな計算の法則や公式については丁寧に指導をしていきたい。特に文字を含む計算に関しては、どの領域にも必ず出てくる内容で、その形式は様々である。幅広い知識と問題処理する技能を時間をかけて繰り返し指導することで確実な定着を図っていききたい。
図形	●市の正答率を0.1ポイント下回った。 ○三角形を対象移動させたときの対応する点を選ぶ問題では、市の正答率を2.4ポイント上回った。 ●仮定の指す内容についての問題では、市の正答率を4.3ポイント下回った。 ○図形を回転移動させたときの図形が重なる角度を求める問題では、市の正答率を1.8ポイント上回った。	・図形の合同や相似の証明については苦手意識を抱えている。図形の領域では、「なぜ合同になるのか」「どうして相似になるのか」など、「なぜ」の部分を確認にする必要がある。そのために、定義や定理が重要になってくるため、ただ暗記するだけではなく、それを使って正しく証明できるように段階を経て指導していきたい。
関数	●市の正答率を1.3ポイント下回った。 ○1次関数のx軸、y軸との交点からできる三角形について、面積を求める問題では、市の正答率を3ポイント上回った。 ●グラフ上に頂点をもつ正方形の辺の長さ求める問題では、市の正答率を0.7ポイント上回ってはいるが、正答率は26.1%と低い結果だった。	・関数を利用した問題の理解を高める必要がある。値の変化の仕方について考えさせたり、その特徴に気づかせたりする時間を十分に設定する。そのために、グラフの傾きや切片など、基本的な関数に関する用語を丁寧に確認しつつ、グラフをかいたり式を求めたりする活動を繰り返し行って定着を図っていききたい。
データの活用	○市の正答率を2.3ポイント上回った。 ○箱ひげ図から読み取れないものを判断する問題では、市の正答率を10ポイント近く上回った。 ●ヒストグラムを読み取り、その特徴をもとに説明する問題では、正答率31.0%と低い結果だった。	・さいころやトランプといった確率に関する理解度は高い。一方で、記録を適切にまとめたり読み取ったりする力が不十分である。日常のことがらを題材にし、ヒストグラムや箱ひげ図を使って記録を自らまとめたり傾向や特徴をまとめ表現したりする時間を設定する。また、平均値や中央値、最頻値など資料を代表する値の意味について十分確認し、その求め方を繰り返し練習し定着を図る。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	70.0	66.5	61.2
	粒子	74.6	70.2	62.3
	生命	75.8	71.8	65.7
	地球	68.5	65.4	61.0
観点別	知識・技能	75.1	72.0	67.3
	思考・判断・表現	70.6	66.0	58.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

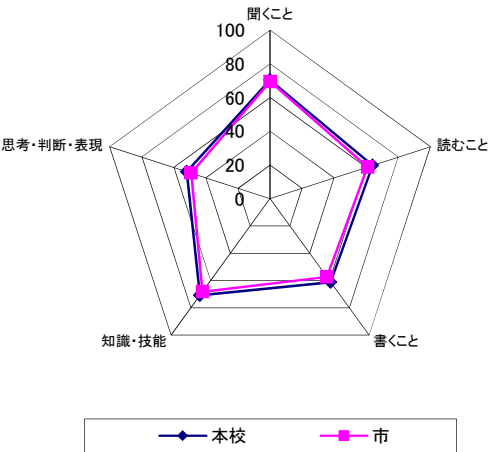
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○「慣性による等速直線運動」について、非常に正答率が高く、市の平均を14ポイント上回っている。この単元は、実験を通してたくさんの体験を積んだ。 ●「音の性質」については、市の平均を3.9ポイント下回っている。この単元は、音叉等を使って演示したり、動画を見て学習をしたが、生徒実験による授業は少なかった。	「生徒自ら行った」実験と「見た」実験の、生徒たちの理解の差が出たようだ。今後は、できる限り生徒実験の機会を増やすと共に、「実験の目的」を理解した上で、生徒主体の学習ができるように指導する。
粒子	○「実験の考察を検討し、改善できる」について、非常に正答率が高く、市の平均を12.3ポイント上回っている。実験・観察においては、常に「予想・実験・考察」の手順を踏みながら行った。 ●「二酸化炭素を発生させるために、石灰石に加える液体を理解している」については、市の平均を2.5ポイント下回っている。気体発生はいろいろな方法があるため、理解の定着が不十分だった。	実験を通して目の前で起きたできごとについて考えたり、ある仮説に基づいて検証型の実験を多く行ってきたため、生徒の理解度は高い。今後も実験を基に知識を構築している授業を続けたい。しかし、「気体発生」の問題は、いろいろな気体があり、かつ種々の発生方法があるため、生徒は理解しにくい様子がある。ドリル等で繰り返し学習し、定着化を図りたい。
生命	○「食べ物の分解」の問題は正答率が高く、市平均を8.9ポイント上回っている。栄養物の消化・吸収については、複雑な部分があるため、図等を活用して何度も学習した。 ●「シダ植物のなかま」の問題は、市の平均を4.7ポイント下回っている。種子植物や裸子植物、シダ植物、コケ植物等のなかま分けを学習したが、理解が不十分だった。	観察・実験を通して、実物や目の前で起こった事実に基づいて得た知識の方が生徒たちには定着しやすい反面、座学だけの場合は定着しにくいので、観察・実験ができない内容については、ドリル等を活用し知識の定着を図っていききたい。
地球	○「無色鉱物」の問題は、市の平均を8.6ポイント上回っている。また「火山噴出物の色とマグマ」の問題は、市の平均を4.8ポイント上回っている。DVD等の視聴覚教材をを活用して学習を進めた。	地球分野で扱う事象は、日常的に起きていることや知っていることが多いが、実際に目で見たり手で触ったりすることはとても少ない。地層の学習において、「路頭の観察」等の実体験に基づく学習を取り入れたいが、なかなか難しいので、ICT教材を積極的に活用して理解を深めていきたい。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	70.3	69.4	63.8
	読むこと	63.9	60.8	55.6
	書くこと	61.2	57.5	47.8
観点別	知識・技能	70.9	68.3	64.1
	思考・判断・表現	51.9	49.2	37.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○対話における適切な応答や、話の流れから発言を類推する問題において、正答率が市の正答率よりやや上回った。 ○対話の内容を聞き、その意味を理解して資料をもとに英語で答えを記述する問題については正答率が市の正答率より2ポイント上回った。 ●日常的な話題についてのまとまりのある英文を聞き、要点を捉える問題については、正答率が市の正答率より約3ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ディクテーションや文章中の適語補充活動を行うことで、発話・対話の力を伸ばす手立てとしたい。 ・単語・文章の音読練習において、デジタル教科書を利用して正確な発音指導を行う。
読むこと	○全14問中11問において、市の正答率を上回った。 ○長文を読み答える問題については4問中4問ともに市の正答率より3ポイント程度上回った。 ●語彙の知識・理解を問う問題は正答率が市の正答率を下回った。 ●受動態の表現が含まれる問題において、正答率を下げている。	・前置詞の多様な使い方や意味、接続詞の正しい使い方等、文章を読み解く上で重要な語句への意識を高める指導を行う。 ・様々な言語活動を通して文章読解の基本となる語彙・語句の学習を繰り返し行う。
書くこと	○領域全体の正答率が市の正答率より3.7ポイント上回った。 ○疑問詞を使って対話の流れにあった英文を書く問題では、市の正答率を大幅に上回った。 ○テーマに沿ってまとまりのある英文を書く問題では、3文以上で答えられている割合が市の割合よりも4.5ポイント程度上回った。	・各単元で新表現を活用した作文活動や小テストを継続的にを行い、文法知識の定着を目指す。 ・教科書の本文等を利用して、読み取った文章の内容を、簡便な言葉で再構築する活動を取り入れる。

宇都宮市立陽北中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・「書く力」を基盤にした表現力・発言力・発表力の伸長	・具体的な根拠をもとに、自分の意見や思考の過程を説明することのできる学習活動の推進。	・国語科や英語科において、「書く力」のスコアは市の平均より僅かに上回っている。数学科においても思考の過程を書いて残し、他者と見比べる授業に取り組んでおり、今後も維持していきたい力である。
・個人用パソコンの活用	・各種機能(ジャムボードやスクールタクト)を用いた授業展開を行い、他者の意見や考え方を自分の考えに反映させる学習活動の推進。	・全ての学年において、1-(6)-【ウ】の⑤～⑨の質問項目に対する肯定的回答が多い。特に⑨の項目に関して、前年度比から向上していることが、授業において「まとめ」の際に積極的にパソコンを活用している様子が見える。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・「主体的に考え、表現できる力」の育成
- ・対話的で深い学びを通した「思考・判断・表現力」の向上
- ・読書活動を通した知識量や読解力の向上